

## オニノゲシ (鬼野芥子)

名前の意味：荒々しい<sup>いみ</sup>ノゲシの意味。鬼はにているが大きなもの、荒々しい<sup>あらあら</sup>感じのものに付ける。ノゲシは、野原に生えるケシの意味だがケシとは全く別の植物。ケシの果実は傷つけると白い乳液が出る。これを固めたものが阿片<sup>あへん</sup>である。ノゲシも傷つけると白い乳液が出る点で似ているが、この液からは阿片<sup>あへん</sup>は取れない。

分類：双子葉類、キク科、ノゲシ属

(キク科の栽培植物<sup>さいばいしょくぶつ</sup>：ヒマワリ、フキ、レタス、ゴボウ)

好きな場所：日当たりのよい道ばた、手入れの悪い庭

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：ヨーロッパ

特徴：刺<sup>とげ</sup>のあるぎざぎざの葉、ちぎると出る白い乳液、黄色い花

種子の運ばれかた：風に飛ばされる

花弁の数：合弁<sup>ごうべん</sup>、5裂<sup>れつ</sup> (たくさんの花が集まってひとつの花に見える。1つの花の形は小さくてよく見えない)

花の時期：4—5月

食べ方：若葉をゆでるとおひたしで食べられる

見分け方：ノゲシとは、葉の刺<sup>とげ</sup>が強くて多いこと、葉のつけねの耳と呼ばれる部分がとがらず丸いことで区別できる。

見つけやすさ ★★

見分けやすさ ★★

総合難易度<sup>そうごうなんいど</sup> ★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)